

2015年12月8日インフルエンザを対象とした薬局サーベイランスコメント

2015年12月8日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

『第49週のインフルエンザの推定患者数は再び増加したがまだ低い水準を推移。流行の開始は1月となる可能性あり』

薬局サーベイランスからの2015年第49週（11月30～12月6日）のインフルエンザの推定患者数は8,250であり、前週の値（第47週：6,471）よりも増加して2015/2016シーズンでは最多となりました。一方、まだ過去5シーズン（2010/2011シーズン～2014/2015シーズンの同時期と比較して最も低い値を推移しています（図1）。各都道府県別の第49週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると福井県、新潟県、沖縄県、三重県、岡山県、山口県、福島県、東京都、兵庫県の順となっています。休日明けの第50週の月曜日（12月7日）の推定患者数は2,452と前週の月曜日の値1,574を大幅に上回っており、第50週は第49週よりも更に増加すると予想されます。

2015年第36週から第49週までの累積の推定患者数は、55,504（約55,500人）であり、年齢群別では40～49歳（13.2%）、5～9歳（13.1%）、30～39歳（12.5%）、10～14歳（11.9%）、20～29歳（10.2%）、50～59歳（10.1%）の順となっています（図2）。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>）によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（126検体解析）は、A/H3（A香港）亜型が50.8%と最多であるものの、A/H1pdm 25.4%、B型23.8%と他の亜型・型のウイルスも検出されています（図3）。

インフルエンザの推定患者数は、第48週は減少したものの、第49週には再び増加が見られましたが、過去のシーズンの同時期と比較してまだ低い水準を推移しています。第50週は、更に増加してくるものと予想されますが、現状のままでは12月中には流行開始に至らない可能性もあります。ただ、流行の開始が1月となっても、その規模が小さくなるというのではなく、2004/2005シーズンのようにB型インフルエンザが流行の中心となって非常に大きな流行となった例もあります。いずれにせよインフルエンザの推定患者数の推移には、今後とも慎重な観察が必要です。

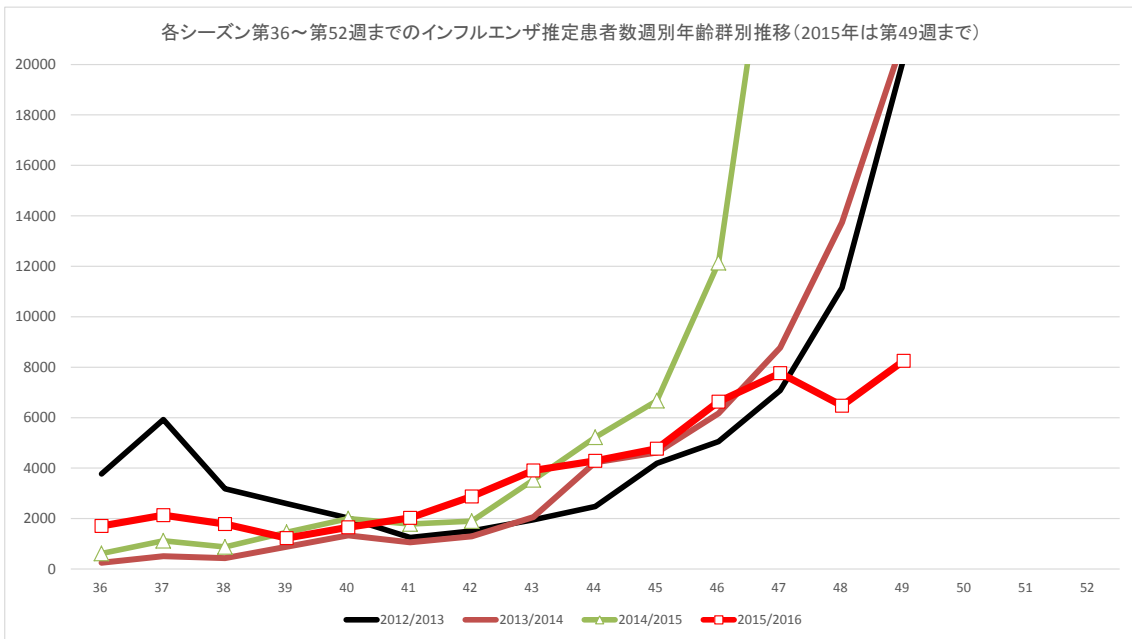


図 1. 過去 3 シーズンと今シーズン (2015/2016 シーズン) の第 36～52 週までのインフルエンザ推定患者数の週別年齢別推移

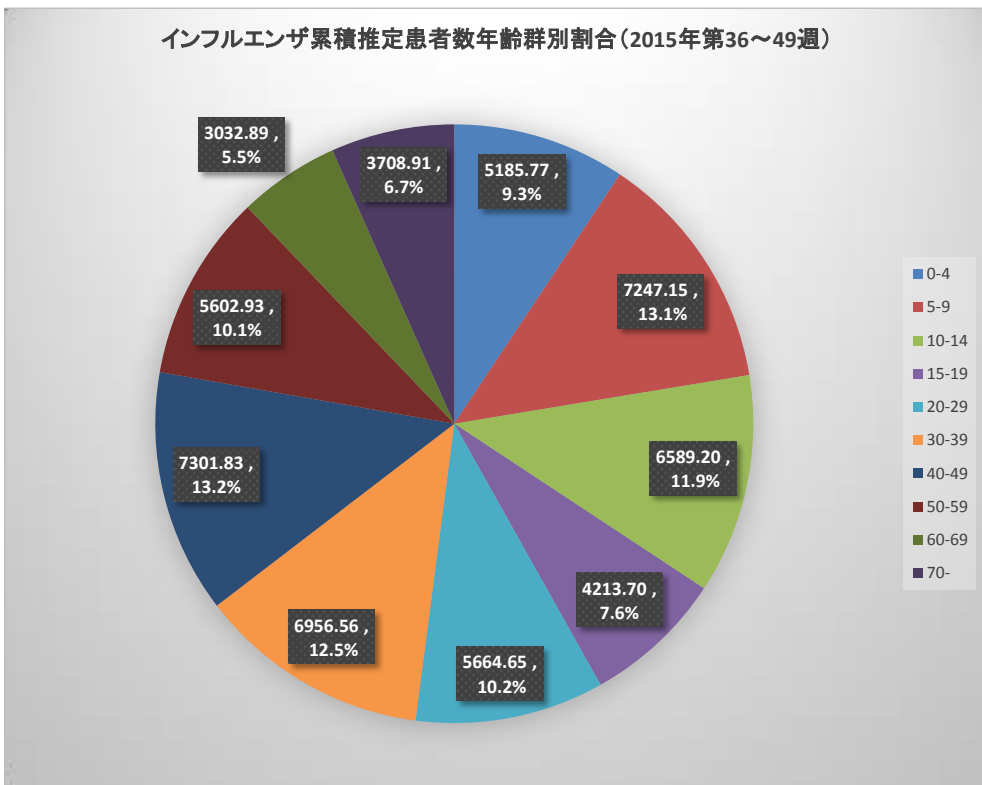


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合 (2015 年第 36～49 週、累積推定患

者数=55,504)

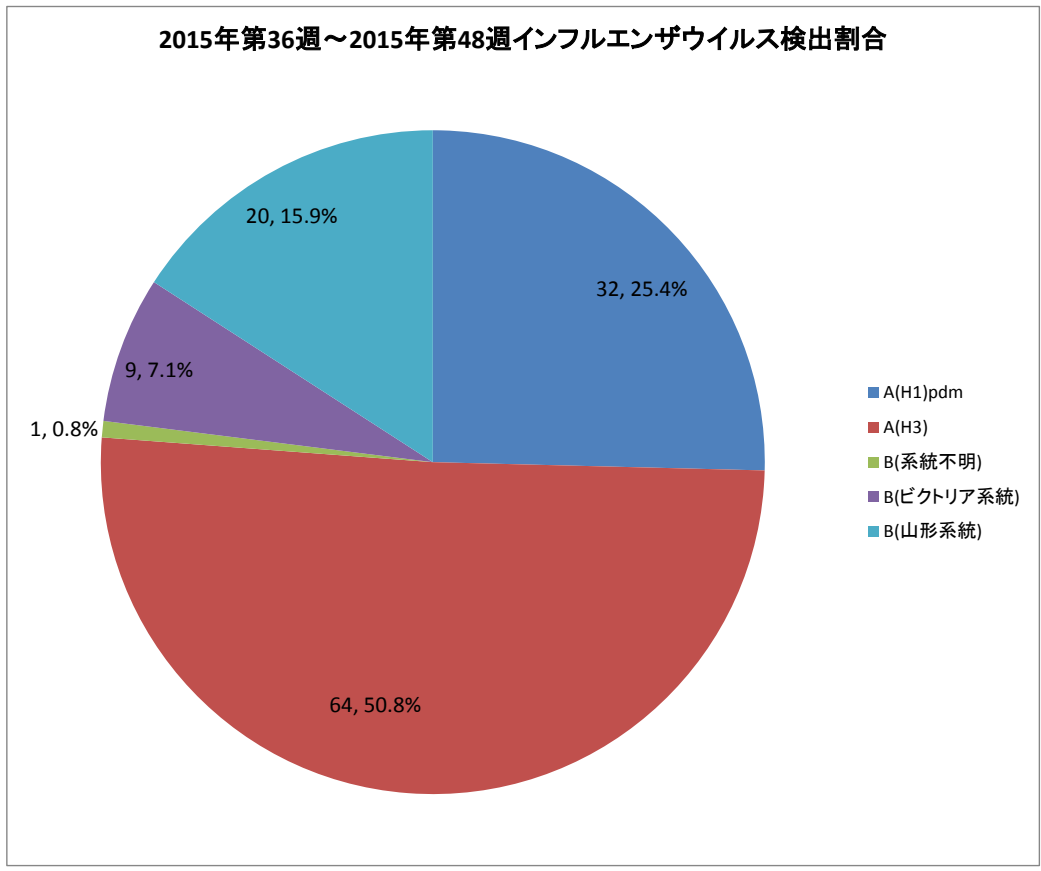


図 3. 2015 年第 36～48 週インフルエンザウイルス検出割合（総検出数=126）